

被災地のための薪づくり～被災地への薪お届け隊～

1 はじめに

盛岡広域振興局では、震災後、職員による山田町の避難所支援を行いました。その中で避難者の方から薪の要望があり、避難所及び漁協へ薪をお届けしてきました。

今年で3年目となるその取組みを紹介します。

2 実施までの経緯

薪を確保するため、広葉樹林整備に取り組んでいる葛巻町森林組合に相談し、広葉樹林整備を実施した現場で「薪」の入手できる箇所の選定、所有者等関係者への調整のご協力を頂きました。

その結果、葛巻町江川にある小岩金網(株)の「企業の森」において、ボランティアによる薪づくりを3年間実施させて頂くことになりました。

3 薪づくりの概要

薪づくりは、盛岡地区に勤務・居住する県職員を対象にボランティアを募り、今年度は平成25年6月1日(土)に行いました。

作業内容は、林内にある伐採木を広場まで搬出した後、玉切りしてトラックに積み込むというもので、参加者約20名で行いました。



写真1 薪づくりの様子

原料となる広葉樹は、長期間林内に放置され乾燥していたことから薪に適しており、45cmほどに玉切られた薪は、2トントラック3台分にもなりました。

葛巻町森林組合の職員の皆様には、薪づくりの当日にもご支援を頂きました。

4 薪の運搬先・用途

宮古農林振興センターのご協力を頂き、今年度は、6月と11月の2回に分け、薪の要望のあった田老町漁協にお届けしました。

漁協では、薪を鮭の定置網漁の際、船上で暖をとるために使用されるとのことです。

なお、震災直後は、山田町の避難所において、お湯を沸かすために使用されました。



写真2 田老漁協での薪おろしの様子

5 今後

この取り組みは、ボランティアを活用して「被災地への支援」と「森林資源の有効活用」を実現したのですが、今後も各種要望に対応し、また、地域の資源を活かす取組みを進めていきたいと思えます。